

## 2024年度事業計画書

### 1. はじめに

#### (1) VICS を取り巻く事業環境

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、社会・経済活動、日常生活はようやく平常を取り戻しつつある。

今年1月に発生した「令和6年能登半島地震」では甚大な被害が発生したが、近年、大雪やゲリラ豪雨等の自然災害も多発しており、ハード・ソフト両面の対応が求められているところである。

一方、半導体や通信、ソフトウェアなどの先進技術が自動車へも応用され、コネクテッドカーや先進運転支援システム、自動運転など、自動車の機能や性能は格段に進化し、モビリティそのもののあり方も変わろうとしている。

また、少子高齢化や物流における2024年問題、カーボンニュートラル、道路施設等インフラの老朽化など、モビリティにおいても対応すべき課題は多い。

2023年度のVICS対応車載機出荷台数は、第3四半期までの出荷台数が269万台（前年同期比105%）、サービス開始からの累計出荷台数も8,128万台にのぼり、VICSは、ドライバーにはなくてはならない社会インフラとして定着しているところである。

昨年策定した当面の事業指針である「VICS中期ビジョン2023」やモビリティ社会を支えるVICSセンターの役割を踏まえ、取り巻く事業環境によりの確に対応していくことが求められている。

#### (2) 前年度（2023年度）の事業概況

##### ①プローブ情報総合化実証実験の継続と拡充

2022年7月に全国拡大したプローブ情報総合化実証実験においては、総合化ロジックの精度改善や情報品質の評価を継続し、安定運用を図るとともに、本格運用に向けた方向性を明確化した。

あわせて、プローブ情報の利活用についても、関係機関と連携し、利活用要件の検討と実証評価を実施した。

##### ②新たなサービスの拡大

2021年から開始した大規模イベント開催時における「イベントおよび規制のう回エリア情報表示サービス」の提供について、各種イベントの復活開催等と

も相まって、各地に拡大した。

また、2021年12月から新潟県で開始した、大雪時通行規制情報等の配信（ポップアップ表示）について、北陸・近畿地域に続き、九州地域、関東甲信地域に拡大した。

### ③システム 2.0 の安定運用と放送局再免許一斉更新

システム 2.0 の安定稼働確保に向け、仮想化基盤リソース状況および回線状況のモニターツールの運用を進めるとともに、サイバー攻撃等に対するセキュリティ対策として、セキュリティパッチ適用の環境を構築した。

また2023年度は、法令上で5年毎に義務付けられる放送事業者の再免許対応年度にあたり、作業フローの見直しと電子申請・電子納付を行い、大幅な経費および資源の削減を実現しつつ、予定通り全国521か所のVICS放送局の再免許一斉更新を完了した。

## 2. 基本的な方針

2024年度は、昨年度に引き続き、「VICS 中期ビジョン2023」で定めた下記を基本的な方針とし、各施策に重点的に取り組む。

- ・ドライバーに的確な道路交通情報を提供することにより、安全で快適な道路交通環境の確立に寄与し、ゆとりのある国民生活の実現と社会経済の発展に寄与するというVICSセンターの基本的な役割を堅持しつつ、社会やドライバーのニーズを踏まえ、VICSを進化・深化させていく。
- ・具体的には、VICSを「より正確に」、「より安定的に」、「より多様に多彩に」展開するため、VICSセンターと関係する産官学の関係機関等と引き続き連携し、技術的・制度的検討を進め、常に利用者目線に立ち、情報の収集、編集、配信の各プロセスにおいて高度化を図る。
- ・これまでのVICSの主な配信情報である道路交通情報に加え、自然災害や天候、交通安全に関する情報等、移動に関するネガティブ要因を排除し、移動の効率化や付加価値をより高めていく情報の配信も充実していく。

### 3. 2024年度の重点的に取り組む施策

#### (1) プローブ情報総合化実証実験の本格運用準備と新たなサービスの検討

##### ①プローブ情報総合化実証実験の継続と本格運用に向けた準備

プローブ情報総合化実証実験を継続し、安定運用に努めるとともに本格運用移行に向けた準備の完了を図る。そのために、必要となるシステム品質や運用体制の確保、情報品質の検証、運用費の低減等による収支の改善の検討を進め、各種ステークホルダーとの合意形成を図る。

また、関係機関との連携により、プローブデータ利活用の更なる推進や総合化ロジックの高度化検討を進める。

##### ②現行サービスの改善と新たなサービスの実現

大規模イベント向け交通規制予告、大雪時通行規制情報等の配信（ポップアップ表示）の地域拡大とサービス内容の充実を図るとともに、観光地の渋滞対策の一助として実施している臨時駐車場情報等の提供について、実証実験のサービス充実に向けた検討を進める。

また、コネクテッドカーなどの技術革新も見据えた新規サービスの検討や能登半島地震等を踏まえた新たな災害情報提供サービスの検討も進める。

##### ③中長期的なサービスの検討

「VICS 中期ビジョン2023」を踏まえ、中長期的なサービスの維持・拡大に向けた検討を行うとともに、国内外の関係機関や有識者との連携を図る。

#### (2) センターおよび放送所システムの高度化・高信頼化

##### ①システムの開発・安定稼働

システム2.0のセンター設備については、引き続き、新サービスの実現に必要な開発を行うとともに、安定稼働を確保するため、システムのモニターツールの更なる機能追加を行う。

また、主要な機能ブロックへのセキュリティパッチ適用を完了させ、セキュリティ対策の向上を図る。

放送所設備については、災害発生時等においても即時に放送サービスの正常性が確認できるよう、市街地モニター（放送所から送信された電波を監視する装置）の全国設置を進める。

さらに、2026年度の仮想化基盤の更新時期を見据え、システム2.0導入以降のサービス展開や運用状況を踏まえた最適な基盤更新のために必要な検討を実施

する。

## ②システムの管理機能の向上・災害等への対応力の強化

運用業務支援システムの機能改善や運用業務フローの見直しにより、システムの管理機能を向上させるとともに、市街地モニターの全国展開により災害発生時等における障害検知の迅速化・正確性の向上を図る。また、臨時災害放送用の可搬型設備の更新・整備を行い、放送所が被災した際の応急復旧体制を強化する。

これらのハード面の対策と合わせ、ソフト面の対策として、JARTIC や NHK 等の関係機関との合同訓練の実施、保守委託業者を対象とした FM 多重技術テクニカルワークショップの開催等を通じ、災害やセキュリティインシデントの発生にも適切に対応可能となるよう人的な能力向上に継続的に取り組む。

## (3) 新たなニーズへの適切な対応

VICS サービスの維持向上のため、ユーザー調査による提供サービスの評価やユーザーニーズの把握を継続するとともに、最新のカーナビ市場動向やスマホの利用状況などを踏まえた VICS 対応車載機台数のトレンド予測を行う。

また、軽・物流系自動車への VICS 対応車載機搭載の可能性調査、カーナビへの新しい情報追加の事例研究や国内外の関連する政策・技術動向の調査など今後の VICS サービスに向けた調査を行う。

## (4) 継続施策の改善・進化

従来から進めてきた知的財産の確保、財務基盤強化、広報・普及促進活動等は、今後の VICS 事業の継続・発展のためには不可欠であるため、これらの改善・進化を引き続き推進する。

### ①知的財産の確保および財務基盤強化

事業の安定的な継続に向け、財源を確保するための知的財産権維持管理は、VICS センターの経営において重要な課題であり、引き続き技術開示契約先における技術情報の管理と VICS 対応車載機出荷実績報告が適切に行われていることを確認するとともに、コネクテッド化の進展等により、車載機仕様が多様化してきていることを踏まえ、契約に基づく機密管理対策の強化を継続する。

### ②広報・普及促進活動の一層の推進

「気象・災害情報」提供の有用性をホームページに追加掲載し、VICS センターの取組によるユーザーのメリットをわかりやすく伝えることで、VICS 対応車載機

の普及拡大につなげる。

また、各種ステークホルダーに対しては、タイムリーな情報発信を継続し、関係強化に努めるとともに、ユーザーの声の収集の強化を図ることで、VICS サービスの改善や経営の強化につなげる。

## (5) 業務管理等

コネクテッド化の進展等による交通情報の伝達方法の多様化や中長期的な我が国の人口減少等と連動したVICS対応車載機の出荷台数の漸減が予想されることから、長期的かつ安定的にユーザーに期待されるサービスを継続するため、VICSセンターの財務基盤安定化を図り、効率的な経費の支出に取り組む。

また、業務の効率化、コンプライアンスの確保を図るとともに、ワークライフバランスに配慮した働き方改革やテレワーク環境の向上を目指す。

さらに、VICSセンターの収益の大部分を占める技術開示・放送料収入を確保するため、VICS対応車載機の変化に対応して契約関係の維持改善に努めていく。